

秋保

野中、並木、大原は、東西に長い秋保のちょうど真ん中ぐらいの周囲を山に囲まれ平らな土地の少ない秋保で、最も広い田園地帯が野中、並木界隈となる。そして大原は、かつての二口街道沿いにあり、先の大戦後は開拓の魂を紡いできた。

野中には秋保総鎮守の秋保神社が鎮座しており、地元の人々は親しみを込めて「お諏訪様」と呼ぶ。お膝元の野中と、隣り合わせの並木、大原の三地区を合わせて、「諏訪」と呼んでいたこともある。古くからのながりの深い土地柄である。

清々しい里山の景観の探訪と、遠い昔の平家落人伝説や中世秋保氏の捲土重来の物語など、秋保の歴史とも出会える道に歩みを進めてみよう。



あるく 野中・並木・大原

平家落人伝説を伝える並木阿弥陀堂

平氏が壇ノ浦で源氏に敗れた後、平清盛の嫡男である小松内大臣 重盛のひ孫にあたる長基主従は、修験者阿曼坊宥意(あまんぼうゆい)を先達として、山伏姿に身をやつし諸国を流浪、ついに奥州秋保郷新川にたどり着きました。

長基は新川で没してしまいましたが、その子基盛一行は、現在並木集会所となっているこの場所で、携えてきた重盛の遺骸と経文を葬り、目印としてもみの木を植えました。さらに、大切に抱えてきた重盛の守り本尊である阿弥陀如来像(小松阿弥陀如来像)を安置して、一族の菩提を弔ったと伝わっています。

その時植えられたもみの木は、老木となったため昭和の時代に伐採され現存していません。また、現在の阿弥陀堂も並木集会所建築の際に南側に移築されたものですが、秋保郷で語られてきた平家落人伝説は、ここ並木を安住の地と定めて住み暮らすことにした人々が起源の物語なのです。

時が流れ基盛の孫盛定の代になって、秋保五ヶ村を領有するに至り、それまでの小松姓を秋保姓に改めて、名実ともに秋保郷の領主となりました。

いってみっぺ 秋保 あるく 野中・並木・大原

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)
秋保市民センター(022-399-2316)

さえぎるものの無い田園地帯 風の道
足の裏に石ころを感じる 轍の出来た野道
古より伝わる伝説 先人の労苦を辿る歴史の道
人の営みが遺してきた 秋保を訪ねる道

掲載されている情報は、令和4年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.36

あるく 野中・並木・大原

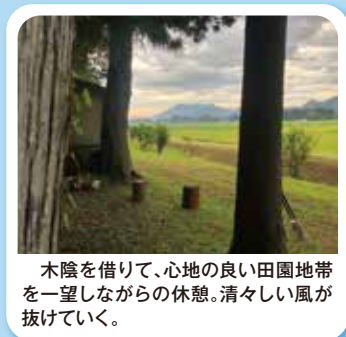


東方を望む 橋山、大倉山そしてその先には秋保温泉が...



6 わだちの野道

土を踏みしめる山際の野の小道。少々疲れはじめた足を癒してくれる。



木陰を借りて、心地の良い田園地帯を一望しながらの休憩。清々しい風が抜けていく。

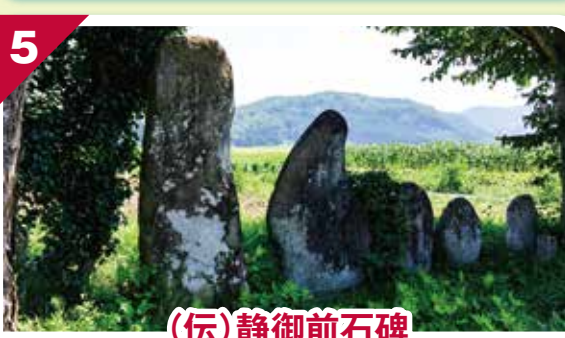


7 岩の下の野道

「岩の下」にも、今では貴重な?足に優しい野道が続いている。



野中のランドマーク戸神山を眺めながら歩く。



5 (伝) 静御前石碑

源義経主従を追ってこの地にたどり着いた静御前の哀しき伝説の石碑と伝わる。



8 向泉寺

飯富山向泉寺は、平俊盛(長基の孫)の開山した五輪山小松寺を前身とした古刹で、秋保の平家落人伝説を象徴する平重盛ゆかりの阿弥陀如来像を、寺宝として小松阿弥陀如来堂に祀っている。



かつての秋保地区の圃場は、未整理で湿田が多く、用排水路や農道も未整備だったため、作業効率が上がらず過酷な労働の一因にもなっていた。こうした耕地が、昭和58年の着工から15年の歳月をかけた大事業によって整備された。沖積層で石礫が多い土地のため、非常な難工事であったそうだ。多くの人の流した汗の結晶が、美味しい秋保米を育む現在の美田なのである。



9 並木阿弥陀堂



4 秋保神社

秋保総鎮守の秋保神社。古くは坂上田村麻呂ゆかりの熊野神社である。中世秋保氏15代盛房が、名取大曲城主の長井晴信に攻められて本拠地の秋保を追われ最上へ逃れた際、悲願の領地奪還という捲土重來の物語を伝える諏訪神社を、藩政時代に大原の桜森から移している。明治期に至り各集落にあった鎮守を合祀し秋保神社となった。



3 一里塚跡

藩政時代、二口街道の目印として、道の両側に円形の盛土をした大原の一里塚があった。その南側には、信州の諏訪社が分霊奉祀されたところがあり、桜森と呼ばれるほど桜の木が多かったと云う。現在は地元の人々が建てた標柱が立てられている。



きれいに刈り込まれた生垣も美しい、あえて旧街道の面影を残す右に左に曲がりかねた大原の道。



2 大原開拓の碑

大原集会所前には、誇り高さ開拓の魂を伝える石碑がある。大原は水の確保が難しく、開拓は困難を極めたがそれを乗り越えてきた。未来へのメッセージと先人の労苦が偲ばれる記念碑である。



10 並木首切地蔵(おせん地蔵)

秋保中学校前の交差点に立つ並木の首切地蔵(左の像)は、亡き父親の供養をする健康な娘おせんの身代わりとなって、盗賊からの危難を救ったという伝説の石仏。隣のお地蔵様は、交通安全を祈願して建てられたものである。



伊勢神宮の分身として祀られた神社は、はじめ並木阿弥陀堂のやや東側、向泉寺門前に近いところに祀られていたと云う。神社が現在の長袋町に移されるまで祀られていたその場所には、ちいさな祠が静かに佇んでいる。

《各ポイント間の所要時間の目安》

- ①秋保市民センター 8分
- ②大原開拓の碑 8分
- ③一里塚跡 8分
- ④秋保神社 8分
- ⑤(伝)静御前の碑 10分
- ⑥わだちの野道 15分
- ⑦岩の下の野道 20分
- ⑧向泉寺 8分
- ⑨並木阿弥陀堂 5分
- ⑩並木首切地蔵 5分
- ⑪秋保市民センター

※注1:所要時間は個人差があります。あくまでも目安と考えてください。 ※注2:有害動物対策用の電気柵やフェンスが設置されている場所がありますので十分注意してください。

【歩行時間:計1時間35分、休憩や写真撮影などを含めた所要時間(目安)2時間30分】